

葉色の急低下に注意。
後期栄養確保に留意しましょう！



※**気象情報**(1か月予報：新潟地方気象台7月25日発表)

【7月27日から8月26日までの天候見通し】

平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率50%です。降水量は、少ない確率50%です。

日照時間は、多い確率50%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率50%です。2週目は、高い確率50%です。

1. 特栽米コシヒカリ生育調査結果(7月25日現在)

田植日(5か所平均)：5月9日

| 項目 | 本年値 | 前年比 | 指標値 | 指標値比・差 | ※調査について |
|---------|------|--------|------|--------|-----------------------|
| 草丈(cm) | 78.6 | 91.3% | 80 | 98.2% | 【草丈等数値】 |
| 茎数(本/株) | 25.7 | 120.7% | 25.3 | 101.6% | 北越後管内定点調査ほ5か所平均値 |
| 葉数 | 12.2 | -0.2葉 | 12.2 | ±0.0葉 | 【指標比・差】 |
| SPAD | 31.6 | 95.4% | 33.5 | 94.2% | 5月10日以降の適期移植の理想生育との比較 |

草丈：並、茎数：やや多い、葉色：淡い

コシヒカリの出穂予想8月5日頃(5月10日頃田植)

5月連休頃田植えの場合は8月3日頃

2. 穂肥施用後の追肥対応について

梅雨明け後、高温が続いており圃場によっては葉色の低下がみられます。

■穂肥施用後でも葉色が低下し後期栄養確保が難しい場合や、基肥一発肥料施用ほ場で出穂前の葉色が低下がみられ、後期栄養の凋落が予想される場合は追肥を検討する必要があります。

【判断めやす】

①気象情報(1ヶ月予報や異常天候早期警戒情報)を参考にしましょう。

②出穂前(穂肥施用後)の葉色の変化(褪めすぎていないか)に注意しましょう。

出穂10日前以降の穂肥は、食味が低下する恐れがあるため原則施用は差し控えますが、

出穂期の葉色は、SPAD値で33がめやすとなりますので、33を下回り葉色低下が予想される場合は

出穂の3日前までに、窒素成分1.0kg/10a以内で施用をおすすめします。

(1)コシヒカリ分施栽培の対応

【表1】コシヒカリ3回目の穂肥対応

| 肥料の種類 | 施用時期 | 施用量 |
|-------------------|-------------------------|--------------|
| 化学肥料 | 走り穂が見られる頃まで (出穂3日前頃) | N:1.0 kg/10a |
| 有機質肥料(有機50%、100%) | | |

(2)コシヒカリ基肥一発肥料栽培の穂肥対応

【表2】基肥一発肥料栽培の穂肥対応(コシヒカリ)

| 肥料の種類 | 施用時期 | 施用量 |
|-------------------|-------------------------|----------------|
| 化学肥料 | 走り穂が見られる頃まで (出穂3日前頃) | N:1.0 kg/10a |
| 有機質肥料(有機50%、100%) | | N:1~1.5 kg/10a |

※有機肥料を使用する場合は、3日前より早めに使用しましょう。

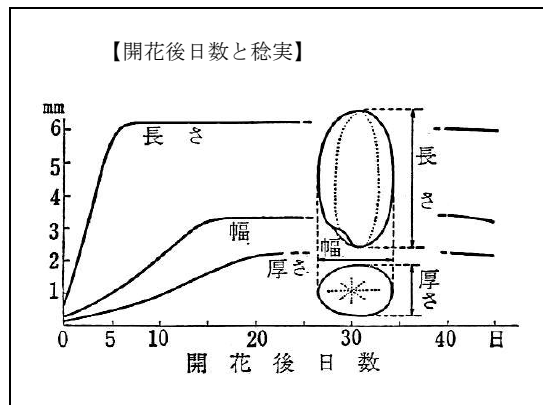
3. 出穂期の水管理

出穂期前後（出穂期から登熟期）は稲にとって最も水を必要とする期間です。

出穂後も25日頃まで湛水管理を継続しましょう。

ア. 早期に落水すると下葉の枯れ上がりや登熟不良による未熟粒増加で品質・食味が低下します。

・玄米は、初めに長さが決まります。
 ・次いで幅、最後に厚みが決定します。
 厚みが決定する時期は開花後30日頃であるため、
 早期に完全落水しますと厚みがない米（未熟粒）となる可能性が高まります。



イ. 台風（フェーン）時の水管理対策

強風・フェーンが予想される場合は湛水状態を保ち、被害の軽減に努めましょう。

ウ. 生育後期まで農業用水を有効利用するため、以下のことに気をつけましょう。

- 掛け流しはやめましょう。
- 水尻・畦畔の漏水対策を徹底しましょう。
- 過度な落水管理はやめましょう。
- 水更新は、強制落水せず自然減水により行いましょう。

4. 病害虫発生情報（7月16日：新潟県病害虫防除所）

| 病害虫名 | 発生量 | 発生程度 | 時期 |
|----------|-------|------|----|
| 葉いもち病 | やや少ない | 少発生 | - |
| 穂いもち病 | やや少ない | 少発生 | 並 |
| 紋枯れ病 | 多い | 少発生 | - |
| 斑点米カメムシ類 | 並 | 並 | - |



● 下越地域7月上旬の畦畔すくい取り調査

| カメムシ種類 | 確認地点率 | すくい取り虫数 |
|--------|-------|---------|
| アカヒゲ | 低 | 並 |
| アカスジ | 並 | やや多 |
| オオトゲ | 低 | 少 |

アカヒゲ



アカスジ



アカヒゲ・オオトゲの発生は並～低(少)であるものの、近年増加傾向にあるアカスジの発生は並～やや多となっています。アカスジの多発年にはコシヒカリの斑点米による格落ち率も高くなる傾向がある※1ことから適期の薬剤防除を徹底し、斑点米の発生防止を徹底しましょう。 ※1 新潟県病害虫発生予察速報第8号

■ 地域一斉本田防除計画に基づき薬剤防除を徹底しましょう。

📖 栽培記録簿の確実な記帳をお願い致します。

～8月末が2回目の提出日となります～